

学校名	佐賀市立小中一貫校芙蓉校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育に対する教職員の意識が高まってきており、小中教職員の情報交換が密に行われるようになってきた。また、9年間同じ視点に立った教育活動の充実も図られつつある。 ・学力向上を目指すため「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりに取り組んできており、次年度でさらに深めていく。 ・特別支援教育の充実及び不登校の児童生徒への対応は、全職員で対応しなければならないことであるとの意識が高まってきており、組織的に対応する体制づくりを図っていく。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」
----------	------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることを通して、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。 ・児童生徒の困り感に寄り添い、全職員が協働して特別支援教育に取り組む体制づくりを図る。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目

重点取組		成果指標 (数値目標)	具体的取組
評価項目	取組内容		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 ○級友との話し合い活動を通して、考えを深めたり、考えを伝えたりすることができたと考える児童生徒を85%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・全教職員で共通して取り組んだことの成果と課題を共有し、PDCAサイクルの円滑な推進を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。 ・校内研究において「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり及び授業を支える環境づくりの実践に取り組む。
	○授業と家庭学習との連携強化	○家庭学習実施率100%を目指す。	・帰宅後の時間の使い方を意識させる「タイムマネジメント」を発達段階に応じて取り入れ、有効な時間の使い方を身に付けさせる。 ・学級通信や家庭訪問及び懇談会等を利用して、家庭学習の取り組み状況を知らせるとともに、実態に応じて保護者の関わり方について啓発を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒を85%以上にする。	・人権集会や道徳に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の授業づくりや評価に関する校内研修等を行う。 ・各学級でグループエンカウンターを実施したり、互いを認め合い感謝し合う言葉かけの実践を促したりすることを通して自己肯定感を高める。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的に対応ができていると回答した教職員を85%以上	・小学部では毎月「〇月の心」、中学部では2ヶ月に1回生活アンケートを行い、実態把握に努める。 ・生徒指導協議会を開催し、児童生徒の生活の現状を把握、情報を共有し、改善策について検討し対応すべき事案について話し合う。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)生徒(中学3年生・義務教育学校9年生)を85%以上にする。	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○基本的な生活習慣を身に付けている児童生徒を90%以上にする。	・児童生徒の発達段階に応じた身に付けさせるべき基本的な生活習慣を明確にし、各学級担任を中心に小中で系統立てた指導を行う。 ・各学期に生活習慣アンケートを行い、その結果をもとに家庭と連携し改善を図る。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒を90%以上にする。	・給食だより、保健室だよりの発行 ・養護教諭及び学校栄養職員と連携した食育に関する授業の実践 ・給食だよりや学校HPの「献立紹介コーナー」を活用し、保護者に対し望ましい食習慣や食事メニューの紹介と啓発を進める。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎月の業務記録票を集計し、把握した状況を連絡会で報告して業務改善を図る。時間外勤務が40時間を超えないことを意識するために、定時退勤日や18時までの退勤を推進する。
	○年間を見通した業務遂行の改善	○優先順位を意識した業務の遂行を図ることができた教職員を90%にする。	・小中学校で連携して業務を遂行することで、年間を見通した提案・報告に取り組ませる。 ・短期・中期・長期的な展望を示し、各教職員が具体的な見通しをもつことができるよう提案を行わせる。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組		成果指標 (数値目標)	具体的取組
評価項目	重点取組内容		
○特別支援教育の充実	○小中教職員の協働による指導体制の充実	○特別支援学級に所属する児童生徒だけでなく、困り感をもっている児童生徒すべての学習機会を保障するために、小中の枠を超え意識をもって支援にあたる教職員100%を目指す。	・授業の相互乗り入れをはじめ、小中学校の枠を超えた積極的な関わりと指導・支援の推進 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・生徒指導協議会の開催、情報共有